

三條別院のご案内

三條別院に想う

昨年五月十九日から二十四日まで、修復された三條別院において、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修され、手継寺住職先導に総勢二十人で参詣いたしました。参詣者が本堂に溢れんばかりの状況で、厳肅な気持ちで入場着席後、読経・ご講師の講話など拝聴し、心が和み有り難い気持ちの一時でした。講師（川村妙慶氏）の声聞き取れなかったのが心残りでした。

二十三日午後六時から、教区の役員として御門首様歓迎会に案内をいただき、ご会食のテーブルへ（指定席）恐るおそる、間近に参列させていただきました。最高感動を覚えた次第です。

二十四日、庭儀にも参列し、御門首様及び主だった役員の皆様先導に、幼稚園児も多数参加し、寺町通り等を練り歩き、町行く人たちは、歩行を一時止めて手を合わせている姿を見て、なお一層尊崇の念が沸き上がり有り難さが身に染みわたりました。

帰路本堂正面参道入口脇に、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要と、鋸起銅器の看板が目につきました。これは、金澤翔子先生（書家）の書をもとに燕市の玉川堂が製作し、前に新潟日報紙面に大きく搭載されたものでした。

十月十三日から一泊二日の日程で、本山東本

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

願寺にて三條教区推薦により、各組から七名が第十二期組門徒会長研修集會に参加し、受講いたしました。開催趣旨に従い、宗務所各部門・事務局の指導で新門徒会長としての教務を無事終了させていただきました。七班七人ずつに分かれ、食事の簡単な給仕及び清掃（御影堂の床雑巾がけ等々）があり、北は北海道・南は愛媛県から参加したメンバーでした。

本山御影堂の大虹梁（樺材幅十四メートル）が、二十組内の松韻寺（小杉）地先、阿賀野川堤防地に埋没したものを引き上げ、献納したものと「昔話」で聞き及んでおりました。

今般、これらを、目の当り拝見したことに伴い、非常に関心を持ち、先日、松韻寺様へ赴き、ご住職様から直接（貴重な保存文章に基づき）ご説明を賜りました。いかに先人が仏の道に尊崇の念が深かったかと、心の底から感嘆の念が一杯でありました。

前記、諸事情を踏まえ、今後、教化事業等に微力ではございますが、少しでもご協力ができれば幸いと存じます。

第二十組光桂寺門徒 齋藤貞夫氏

○次回の「三條別院に想う」は、

佐々木憲雄氏（第十五組光善寺）より

ご執筆いただきます。

ケネス・タナカ氏がやってきた！

四月二十四日（日）、三條別院公開講座が開催されました。三條別院では「地域に開かれた別院」をめざし、現代の問題と仏教についての公開講座を年一回開催しています。

今年の講師は、ケネス・タナカ氏（武蔵野大学教授・日本仏教心理学会会長）。「アメリカ仏教」という著作があり、「真宗を日本や欧米という現代社会にどう伝えるか？」ということを課題としている先生です。アメリカでは西洋的な知の行きづまりをおぼえる人々を中心に仏教徒人口が爆発的に増加しています。ケネス氏はチベット仏教のダライラマ十四世、アップルのスティーブ・ジョブズ、俳優のリチャード・ギアなど、アメリカで著名な仏教徒のエピソードをスライドを用いながら語り、時にジョークを交えながら講演されました。百名を超える参詣者が集まり、質疑応答も活発で、非常に盛況でした。しかしその一面では、僧侶問わず多くの人が、日本の仏教の現状に「危機感」を覚えているのでしよう。宗門の枠にとらわれない挑戦的な内容の公開講座を今後も開催していく予定です。ぜひお楽しみに。



院議会議臨時会のご報告

二〇一六年四月十五日(金)に院議会議臨時会が開催されました。可決された議案について、以下のとおりご報告します。

第一号議案 三条別院境内地総合整備事業計画案
賛成多数で承認(詳細は教区通信記事参照)。

第二号議案 三条別院境内地総合整備事業計画にかかる教区内寺院及び徒に対する寄付金のお願について承諾を求める件 全会一致で承認。(詳細は教区通信記事参照)。

春の別院奉仕研修会のご案内

本年も先のとおり「春の奉仕研修会」を開催いたします。推進員・別院有志の会中心の奉仕研修会ですが、どなたでも御参加できますのでぜひお申し込みください。

◇開催日 五月三十一日(火)

◇時間 午前九時三十分受付 十時より

◇内容 ①野外清掃(草取り等の作業) ②屋内清掃

◇締切 十月二十日(月)。別院まで参加者名簿をご提出ください。

◇参加費 無料(昼食はご用意いたします)

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 五月二十八日(土) 午前十時より

◇会場 三条別院 本堂

◇お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

池田 陽氏 (第十八組長周寺)

— 『歎異抄』に聞く【第五章】 —

◆一月の御命日のつどいより、『歎異抄』に聞くという内容で、第一章から順に、それをテーマに法話頂いております。

◇今後の講師一覧

六月 朝倉 奏氏(第二十組金寶寺)【第六章】

定例法話会

毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 旧御堂
◇講師

五月・六月 村山教二氏(第十一組願興寺)
七月 松岡誠一氏(仏像文化財工房)

「親鸞聖人御木像調査について」

◆二〇〇八年から二〇一五年にかけて行われた宗祖親鸞聖人御木像調査について、担当委員の村山教二氏と、新潟日報の連載記事でもおなじみの松岡誠一氏にお話しいただきます。

御命日の集いでは『歎異抄』を、定例法話では「宗祖御木像調査」について学んでいます。はじめての方も、ぜひぜひ参加してみてください！ 定例法話は『越後佐渡の親鸞聖人と蓮如上人』がテキストです。教務所で販売しています(一冊千円)。



その他の講座案内

○別院声明教室（全五回・途中参加可能）

〔月一回、午後六時～八時〕
二月十八日（木）〔済〕、三月十七日（木）〔済〕
四月二十一日（木）〔済〕、五月十九日（木）、
六月十六日（木）

講習内容 真宗大谷派勸行集（赤本）

講師 長田 暢氏（第十六組 善興寺）

参加費 五〇〇円／回

○別院書道教室

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）

月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

随時募集中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講（清掃講）

二〇一五年九月に結成された、生まれたてホヤホヤのお講です。現在、講員は全員で十一名、さらに多くのみなさんと一緒に活動したいと現在講員大募集中です！

ぜひ、御一緒に清掃奉仕と十三日の定例法話の聴聞をし

○三条別院有志の会

ませんか！講員一同、心からお待ちしております！
もともと三条別院のお朝事にお参りしている（門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。



【恒例の観桜会！（4月11日）】

同朋会館へ宿泊される方へのお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後シートクリーニング代五〇〇円とシートを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

◆◆編集後記◆◆

四月二十四日に三条別院で公開講座が開催された。本年度は、武蔵野大学教授であり、日本仏教心理学会会長のケネス・タナカ氏を講師に招き、「アメリカで仏教が伸びている現状と原因」そ

の中での「浄土真宗」という講題でご講義をいただいた。音楽や映画などアメリカ文化について並々ならぬ憧れを持つ私は、以前よりケネス氏著書『アメリカ仏教』を読み、自分なりの関心を持つて公開講座当日を迎えたのであった。

講義の中ではアメリカン仏教ジョークが度々飛び出し、「例：アメリカでは男性僧侶がびくびく（比丘比丘）しています」来場者を全く飽きさせない講義は、流石アメリカでも教鞭をとったケネス氏であると感心したものである。

もちろんジョークだけではなく、講義ではアメリカへ仏教が渡った経緯となぜアメリカ人に仏教が受け入れ始めたか、またアメリカでは日本以上に結果を求める文化から、行（プラクティス）が重視され、そのなかで行を否定する浄土真宗をどのように伝えるべきかについての視座などを解説いただき、異文化でありながら仏教という点でつながるアメリカについて、より私の関心を掻き立てるような内容であった。

また、ケネス氏は講義でこのようなことを述べた。「日本人は謙虚で控えめに見える、それを美德であるとする見方もあるが、同時に内に籠るという傾向があるということである。」私も無意識に内に内に籠ろうとする。籠る方が楽だからである。檀家制度が無く、葬式があまり重視されないアメリカでは、内に籠った教えは見向きもされないのだろう。真宗は広く開かれた教えである、それを内に籠らせてしまうのは私自身である。

（森尻）